

# 大日本印刷、自動化率50%を目標に研究とビジネス革新のためのChatGPTエンタープライズを戦略的に導入

2025年3月5日、大日本印刷（DNP）はOpenAIのChatGPT Enterpriseを2025年2月に導入し、デジタルトランスフォーメーションを大きく前進させると発表した。この戦略的な動きは、特に研究開発部門と新規事業開発部門を対象としており業務の50%以上を自動化するという野心的な目標を掲げている。DNPは、このエンタープライズグレードのAIシステムの高度な機能を活用し、生産性の向上、作業時間の短縮、複数の業務機能にわたるアウトプットの品質向上を目指す。同社の導入は、既存のデジタル・インフラを基盤としており、印刷技術と情報技術を組み合わせてイノベーションを推進し、市場に新たな価値提案を生み出すという同社の広範なビジョンに沿ったもので<sup>1)2)3)</sup>。

## DNPのデジタルトランスフォーメーションの旅とビジネスビジョン

日本を代表する印刷会社である大日本印刷は、事業ビジョン「P&Iイノベーション」を軸に、デジタルトランスフォーメーションを事業戦略の中核に据えている。このビジョンは、印刷技術と情報P&I技術を戦略的に融合させ、「事業推進」と「基盤強化」の両面から新たな価値を創造するものである。同社は、デジタルトランスフォーメーションをさらに進めるためには、マルチモーダル処理や論理的推論機能によって複雑な問題を解決し、高度な分析を行う技術が必要であると認識している<sup>3)4)5)</sup>。この理解は、最近のChatGPT Enterpriseの採用を含む、同社の技術投資の意思決定の指針となっている。

ChatGPTエンタープライズの導入は、DNPのAI技術への持続的な投資の継続を意味する。同社は2023年、国内外のグループ従業員万人が日常業務でジェネレーティブAIを活用できる高セキュリティ構築した<sup>(2)5)</sup>。このインフラは、組織全体でより広範にAIを導入するための基盤となった。DNPはAIイノベーションへのコミットメントをさらに示し、2023年11月に「ジェネレーティブAIラボ東京」を開設した。このラボは、ジェネレーティブAIのアプリケーションを探求・開発するために、社内スタッフと社外パートナーの双方を対象に設計された共同スペースで<sup>ある(2)5)</sup>。このイニシアチブは目覚ましい成功を収め、運営開始から約1年で2,000を超えるユースケースを生み出している<sup>(2)5)</sup>。

DNPのデジタルトランスフォーメーションは、ジェネレーティブAIにとどまらず、事業運営の他の側面にも及んでいる。同社は2023年6月、国内トップシェアを誇るPETボトル無菌充填ラインでの豊富な経験をもとに開発した製造DXソリューション「DNP飲料工場支援サービス」を開始した<sup>6)</sup>。本サービスは、食品・飲料製造労働力、品質、生産性などの重要な課題を解決することを目的としている。

データ可視化・分析ツールを活用して工場運営を改善することで、人材不足、人材育成、技術移転の問題を解決する<sup>3457</sup>。この取り組みは、DNPがさまざまな事業セグメントでデジタルトランスフォーメーションを実施するための体系的なアプローチを示している。

## ChatGPTエンタープライズの技術力と実装戦略

ChatGPTエンタープライズは、ビジネスアプリケーションのAI機能を大きく進化させた。このプラットフォームはマルチモーダル処理を可能にし、テキスト、画像、音声、動画を含む多様なデータ形式を統合的に扱うことができます<sup>(2)457</sup>。さらに、思考プロセスを連鎖させ、推論によって結論を導き出す高度な論理的思考機能も備えている<sup>2457</sup>。これらの高度な機能性により、従来の技術では困難であった業務プロセスの変革が可能に。

大日本印刷の導入戦略は、各事業部門固有の要件に合わせた部門別AIエージェントの構築に重点を置いている<sup>3457</sup>。開発部門では、これらの特化型AIエージェントが、新素材探索、品質分析、特許研究・出願、規制研究、システム開発活動を支援する<sup>3457</sup>。

<sup>457</sup>。このような的を絞ったアプローチにより、組織全体に画一的な解決策を適用するのではなく、各機能領域における具体的な課題や機会に対処することが可能になる。

ビジネス開発部門では、ChatGPT Enterpriseを活用して、社会、市場、消費者の問題やニーズを迅速に把握し、理解することが導入の中心となる<sup>3457</sup>。

<sup>3457</sup>。また、このテクノロジーは、さまざまな市場調査の実施や、数多くのビジネス・アイデアの効率的な評価にも活用<sup>3457</sup>。このアプリケーションは、従来の手法では不可能であった、より深い洞察と、より包括的な潜在機会の分析を可能にすることで、事業開発プロセスを加速させることを目的としている。

## 自動化の目標と期待されるパフォーマンス向上

大日本印刷は、ChatGPTエンタープライズ<sup>13(9)</sup>の導入により、業務の50%以上を自動化するという意欲的な目標を掲げている。この目標は、ビジネスプロセスを合理化し、業務効率を高める上で、先進的なAI技術が変革をもたらす可能性があるという同社の認識を反映したものである。自動化戦略は複数の機能またがり、特に複雑な認知タスクが研究開発や新規事業開発活動に重点を置いている。

この導入により、大幅な業績向上を見込んでいる。ChatGPT Enterpriseを導入した部署では、従来と比較して作業時間の大幅な短縮が見込まれる<sup>18(3)</sup>。

<sup>457</sup>。これらの時間節約は、ルーチン・タスクの自動化によってもたらされると予想される、情報処理の高速化、AI提供する意思決定支援機能の強化。同社はまた、時間の効率化だけでなく、効率的に実行できる業務の範囲を拡大し、さまざまな業務機能全体のアウトプットの質を向上させることも目指している<sup>183457</sup>。

大日本印刷は、この技術導入のメリットを最大化するため、複雑で困難な業務に対応できる特化型AIエージェントの開発を重視して<sup>83457</sup>。これらのエージェントは、ChatGPT Enterpriseの迅速な情報処理能力と論理的推論機能を活用して、意思決定プロセスと業務成果を強化するように設計される。また、特定のビジネステーマに沿った多様なプロジェクトチームを編成し、生産性向上や新たな価値創造に向けた社内ユースケースを構築していく予定である<sup>83457</sup>。

## 従業員育成とAIリテラシー向上プログラム

DNPは、技術導入の成功には技術的インフラと人的能力開発の両方が必要であることを認識し、従業員のAIリテラシーのための包括的アプローチを開発した。同社は、グループ全従業員が業務において積極的かつ継続的にジェネレーティブAIを活用できるよう、研修プログラムやコンテストの実施を計画している<sup>1135</sup>。これらの取り組みは、従業員がこれらのシステムで生産的に働くために必要な知識とスキルを身につけることで、開発中のAIエージェントの効果を最大化することを目的としている。

DNPはまた、組織内でAI技術を責任を持って使用するための指針として、AI倫理ポリシーを制定した<sup>125</sup>。このポリシーは、法令遵守、公平性、プライバシー保護などの重要な検討事項を取り上げ、従業員がAIの導入に関連する潜在的な倫理的課題に対処するための枠組みを提供するものである。AIの使用に関する明確なガイドラインを確立することで、潜在的なリスクを軽減しつつ、責任あるイノベーションを推進することを目指している。

大日本印刷のAIリテラシーへの取り組みは、公式のトレーニングプログラムにとどまらず、より広範な文化的変革を包含している。DNPは、技術革新を受け入れ、継続的な学習と適応を奨励する企業文化の創造に取り組んでいる<sup>(2)35</sup>。このような文化的転換は、デジタルトランスフォーメーション・イニシアチブの勢いを持續させ、技術的進歩を永続的なビジネスつなげるために不可欠である。大日本印刷は、このような多面的な取り組みを通じて、ChatGPTエンタープライズやその他の先進技術の可能性を十分に活用するために必要な人的能力を構築しています。

## リーダーシップのビジョンと将来展望

大日本印刷（DNP）の北島義成社長は、AIを活用した変革について明確なビジョンを示している。同氏は、DNPが「より良い未来」の実現に向けて変革を加速していることを強調し、AI技術の飛躍的な進化には事業運営への戦略的な組み込みが必要であるとの認識を示している<sup>35</sup>。北島氏は、既存のプロセスやビジネスモデルの漸進的な改善を超えた大胆な変革を推進するためには、先進的なAI技術の導入が不可欠であると述べている<sup>(3)5</sup>。

社長はまた、同社のデジタルトランスフォーメーションの旅における戦略的パートナーとして、OpenAIとの「対話と協力」を深めることの重要性を強調している<sup>35</sup>。このパートナーシップ・アプローチは、テクノロジー導入の成功には、新しいツールの採用だけでなく、継続的な進化と機能強化のためのテクノロジー・プロバイダーとの継続的な協力が必要であるというDNPの認識を反映している。この協業を通じて

大日本印刷は、より良い社会と人々の豊かな生活の実現に貢献することを目指しています。

将来に向けて、DNPはAI技術への投資を継続し、導入戦略の継続的な改善を計画している<sup>1</sup>。同社は、デジタルトランスフォーメーションは目的地ではなく継続的な旅路であり、持続的なコミットメントと、進化する技術力と市場適応が必要であると認識している。大日本印刷は、このような将来を見据えた維持することで、業界の技術革新の最前線に立ち続け、競争継続的に高めていくことを目指している。

## 結論産業とビジネスの変革への示唆

DNPによるChatGPT Enterpriseの導入は、伝統的な製造・印刷企業がいかに先進的なAI技術を活用してビジネス変革を推進できるかを示す重要なケーススタディとなる。業務の50%以上を自動化するという同社の野心的な目標は、組織が戦略的なAIの導入を通じて達成できる可能性のある大幅な効率向上を浮き彫りにしている。この取り組みは、業務効率とイノベーション能力の強化を目指す類似業界の他の企業にとって、青写真となるかもしれない。

大日本印刷が取った多面的なアプローチは、技術的な導入と人的能力の開発、文化的な変革を組み合わせたもので、デジタルトランスフォーメーションの取り組みにおいて、技術的要因と組織的要因の両方に取り組むことの重要性を裏付けている。AIリテラシーに投資し、技術導入と並行して倫理的ガイドラインを確立することで、大日本印刷は短期的な効率性の向上だけでなく、持続可能な長期的成功の条件を整えつつある。

大日本印刷がChatGPTエンタープライズの導入を進めるにつれ、彼らが達成した成果は、エンタープライズグレードのジェネレーティブAI技術の実用的な利点と課題に関する貴重な洞察を提供するでしょう。彼らの経験は、様々な業界における将来の導入役立ち、これらの高度な技術がどのように業務を変革し、イノベーションを推進できるかをより広く理解することに貢献するでしょう。大日本印刷は、デジタルトランスフォーメーションへの包括的なアプローチを通じて、顧客と社会に新たな価値を創造しながら、テクノロジー主導のビジネスがますます激化する中で成功を収められるよう、自らを位置づけている。

✻

<https://plus-web3.com/media/1110250306chtgpt/>

<https://news.yahoo.co.jp/articles/06e7a6160a391de824c39e60ddb4af17abc01923>

<https://casehub.news/category/news/chatgpt-enterprise.html>

[https://www.nikkei.com/nkd/company/article/?DisplayType=11&ng=DGXZRSP687825\\_V00C25A300000\\_0&scode=7912](https://www.nikkei.com/nkd/company/article/?DisplayType=11&ng=DGXZRSP687825_V00C25A300000_0&scode=7912)

<https://mainichi.jp/articles/20250305/pr1/00m/020/017000c>

[https://www.dnp.co.jp/news/detail/20169406\\_1587.html](https://www.dnp.co.jp/news/detail/20169406_1587.html)

[https://www.nikkei.com/article/DGXZRSP687825\\_V00C25A300000/](https://www.nikkei.com/article/DGXZRSP687825_V00C25A300000/)

[https://www.dnp.co.jp/news/detail/20176405\\_1587.html](https://www.dnp.co.jp/news/detail/20176405_1587.html)